

プロジェクトマネージャー：藤井 彰人 PM
(KDDI 株式会社 サービス企画本部 クラウドサービス企画開発部長)

1. プロジェクト全体の概要

従来型のアプリケーション開発手法やテクノロジーだけでなく、新たな情報価値の創造やコンピューティング・リソースの新たな活用方法に注目し、以下のいずれかのテーマに該当するプロジェクトを採択し、グローバルに通用するクリエイタを発掘し育成することを目標としている。

- (1) 情報の「価値」に着目したアプリケーションやサービス
Network 上に広がる様々な「情報」を活用し、新たな「価値」を創造する Web アプリケーション
- (2) クラウドを活用したアプリケーションやサービス
クラウドならではの特徴を活用した、これまでにない Web アプリケーション、またはサービス
- (3) 言語依存度合いの低い、グローバルに通用するソフトウェア、アプリケーション、Web サービス
日本におけるサービスやテクノロジーの特色を生かしつつ、世界に通用するアプリケーション。または、地域、コミュニティ横断的なソーシャルアプリケーション

ねらい

様々な新規サービスが国内で提案されるものの、グローバルな観点から、開発後の発展性の低いものが数多く見受けられる。本プロジェクトでは、提案そのものの先進性を具現化するだけでなく、未踏プロジェクト以後、ビジネスや海外での展開可能性をさらに広げる事に注目して、プロジェクトの運営、クリエイタの育成を行った。

成果内容の報告、開示は、Web, Demo video を英語で作成することを必須とし、「開発だけで終わり」とならないように留意した。

プロジェクトの評価

今回のプロジェクトでは、4つのプロジェクトを採択したが、いずれのプロジェクトも公募対象内容に2つ以上合致しており、大変ユニークなプロジェクトである。

- (1) ホビー性と実用性を兼ね備えた手のひらサイズの飛行ロボットシステム
- (2) HTML5 を活用した次世代 Web ベース統合開発環境の開発
- (3) コンテキストに応じた変換候補を提示する入力システムの開発
- (4) 就業ログと逆求人融合した就職支援システムの開発

詳細は個別プロジェクト毎に後述するが、いずれのプロジェクトも、キックオフミーティング、ブースト会議、不定期のミーティング、中間合宿、成果報告会等の指導の機会を通して、当初予定していた開発目標を達成し、今後のさらなる発展性も高く期待できるものとなった。これら4つのプロジェクトの内、(1)と(2)は言語依存度の低いものであり、いずれもグローバルにアピール可能なものに仕上がっている。(3)と(4)は、情報の価値に注目し、クラウドを活用したサービスとなっている。

2. プロジェクト採択時の評価（全体）

公募プロジェクトの中から、前述した3つの視点に加えて、クリエイターの本プロジェクトにかける意気込み、開発体制と開発スキル、今後の発展性の3つの視点を加えて、4つのプロジェクトの採択に至った。

それぞれのプロジェクトの特徴として、提案当初のサービスのアイデアよりも、その元となるコンセプトの、今後のプラットフォーム、インフラコンポーネントとしての発展可能性を重視している。このため、採択時には各提案にこの点も評価対象となったことについて触れておきたい。

- (1) ホビー性と実用性を兼ね備えた手のひらサイズの飛行ロボットシステム

ホビーユースからビジネスユースまで、クワッドコプターの開発と活用は、その楽しさと大きな可能性から、世界各地でスタートアップを始め様々な製品を発表している。

本プロジェクトは、飛行ロボットを開発し、ホビーから一般家庭などでの実用まで対応させようという提案であった。飛行ロボットで屋内限定の実用性に対して、どの程度まで対応できるのかについて疑問は残るものの、クリエイターの飛行ロボットに対する高い実装能力と情熱、及びホビーを含めたその応用力の高さから採択すべきと判断した。プロジェクトの期間内に、超小型飛行ロボットの実装だけでなく、その活用方法というソフト部分をも発展させてもらいたいと考えた。

(2) HTML5 を活用した次世代 Web ベース統合開発環境の開発

HTML5 のテクノロジーにより、これまでは Rich Client でのみ実現可能であったサービスの Web 化が様々な分野において急激に拡大している。また、サービスの実行基盤としても、IaaS/PaaS サービスのようなアプリケーション実行基盤の活用が拡大している。このような環境下において、統合開発ツールの Web 化も当然の流れではあるが、Cloud9 などはあるもののまだ十分とはいえない。

本プロジェクトは、次世代 Web ベース統合開発環境の開発であり、まさに大きな可能性を持っている。クリエイターの HTML5 に対する知見や情熱を、是非、いつでもどこでも使えるサービスをいつでもどこでも開発できる、クラウドの時代にふさわしい開発環境へと結びつけてほしいと考えた。

(3) コンテキストに応じた変換候補を提示する入力システムの開発

日本語入力システムは、辞書や学習という PC 上での単体実装視点から、モバイルやクラウドの時代を迎えて、新たなチャレンジに直面している。加えて、ユーザはコミュニケーションチャンネルを様々な方向に拡大させており、ビジネスからプライベートまで様々な文脈でモバイルデバイスから情報を発信している。

本プロジェクトは、モバイルデバイスにおいてコンテキストに応じた変換候補を提示する入力システムの提案であり、前述のような課題をスマートに解決する大きな可能性を秘めている。クリエイターのこれまでの開発実績から判断しても本システムの実現性は高く、また「何も入力しなくても、適切な文章が選択できる」究極の形まで考えていることは、まさに未踏クリエイターとして採択するに相応しい。是非これまでにない入力システムを開発してほしいと考えた。

(4) 就業ログと逆求人融合した就職支援システムの開発

アルバイトやインターンといった就職前の就業実績は、就職や採用の際には重要な情報であるが、現在は履歴書での文字記載のみであり就職、採用の現場でこれらの情報が活用されているとはいいがたい。

本プロジェクトは、アルバイトの勤怠管理を通して、企業の採用側へ提案する就職/採用支援サービスの提案であり、まさにこのギャップを埋めようとするものである。加えて、就業形態が多様化するなか、フリーランスや委託業務など本サービスは学生向けだけではない活用シーンも考えられる。クリエイターらは、自らのアイデアを具現化するために、コンテストに参加したりして新たなサービスの構築に非常に情熱を持って取り組んでいることにも注目した。是非、新しい視点で就職支援のためのサービスを開発してほしいと考えた。

いずれのプロジェクトもコアとなるアイデアを重視し、採択後のプロジェクト期間中に、外部有識者からのアドバイスを求める等して、それぞれの課題を解決していく手法をとることとした。

3. プロジェクト終了時の評価

本プロジェクトでは、分野の異なる4つのプロジェクトを採択したが、いずれもそれぞれの分野において新たなプラットフォームとなりうる内容に仕上がっている。自律飛行可能な小型ロボット Phenox（此村 PJ）は、KickStarter 販売に成功し多数のニュースにも取り上げられた。クラウド型 WebIDE（矢萩 PJ）は、Hackthon 用の新しい IDE を提供している。コンテキストを理解する IME（中園 PJ）は、クラウド型 IME の形を提案しており、就業ログと企業をマッチングする Mirrorio（原 PJ）は、女性の就職就業支援を実現している。

それぞれのプロジェクトの開発内容や達成度合いには違いはあるものの、概ね当初予定していた以上の成果を上げており、担当 PM としても満足している。個別の評価は個別評価に後述する。

プロジェクト全体では、中間合宿、進捗ミーティング等を複数回開催することで、定期的なフィードバックの場を設けた。これにより、様々なアドバイザーから様々な視点でコメントを頂くことができ、クリエイターには貴重な体験となったであろうと考える。人材育成の視点を持つ現在の未踏プロジェクトにおいては、将来採択するプロジェクトにおいてもこのような機会を提供する事はとても重要と考える。